

平成17年(2005年)5月24日  
長野県病害虫防除所

担 当	発生予察課 宮川仁志
電 話	026-248-6471
F A X	026-248-1069
電子メール	bojo@pref.nagano.jp

## 病害虫発生予察注意報 第1号

病害虫名 ナモグリバエ

対象作物 レ タ ス

### 1 発生予想

県内レタス産地で多発する恐れがあり、防除を徹底する必要がある。

### 2 対象地域

県下全域

### 3 根拠

- (1) 中信地区において春レタスから多発傾向が続いている。
- (2) 5月上旬の巡回調査では、多発生のほ場が目立つ(表1)。
- (3) ナモグリバエ成虫による産卵・吸汁痕は、ほぼ全て巡回調査ほ場で見られ、また成虫の活動は活発である。
- (4) 野菜花き試験場及び同試験場佐久支場の調査によると、発生時期が早く、また発生量も多い(表2)。
- (5) ナモグリバエの発育温度帯は、6.0 (発育零点)から 25~30 (発育高温限界)と比較的低い。今後1ヶ月の気象予報によると、気温は平年並か低いと予想されており、ナモグリバエの発生適温が続くことから、今後も増加すると予想される。

### 4 防除対策と留意点

- (1) 育苗時から寄生するので、育苗施設は成虫の侵入を防ぐために、開口部を寒冷紗等で覆う。また、黄色粘着板を設置して成虫を誘殺する。
- (2) 無寄生苗を本圃へ定植する。
- (3) 定植前または定植当日に薬剤による防除を実施するとともに、本圃で潜条痕(幼虫による葉肉の食害痕)を確認した場合にも薬剤散布による防除を実施する(表3)。

表1 ナモグリバエ発生状況  
(5月巡回調査による傾向)

		調査地点	発生程度
東 信	川上村	御所平	無
	南牧村	野辺山	無
	小諸市	北大井	中
	御代田町	伍 賀	少
		草 越	無
中 信	真田町	菅 平	無
	塩尻市	洗 馬	中
		岩 垂	中
		片 丘	中
		宗 賀	少
	朝日村	古 見	多
		西洗馬	多

発生程度の調査基準

多：外葉または下葉のほぼ全体に潜条痕（幼虫による葉肉の食害）が認められる。

中：外葉または下葉のほぼ全体に潜条痕を認めるが、その程度は「多」より少ない。

少：外葉または下葉の一部に潜条痕が認められる。

微：外葉または下葉の一部にわずかな潜条痕が認められる。

無：潜条痕が認められない。

表2 野菜花き試験場における調査結果（無防除区における10株当たり潜条痕数）

野菜花き試験場（長野市松代町）

調査月日	5/2	5/6	5/9	5/11	5/14	5/20	5/28	
本 年	9	82	264	341	-	-	-	定植日：4/11
前 年	-	-	-	-	1	18	27	定植日：5/7

佐久支場（小諸市）

調査月日	5/6	5/14	5/21	
本 年	232	867	-	定植日：4/8
平成15年	-	6 <sup>注)</sup>	47	定植日：5/7

注)平成15年は5/13調査

表3 ナモグリバエに登録のある薬剤一覧（平成17年5月18日現在）

農 薬 名	作物名	希釈倍数 または 使用量	散 布 液 量	使用時期	本 剤 の 使用回数	使用方法	有効成分の 総使用回数
ベストガード粒剤	レタス	1g/株		育苗期後半	1回	株元処理	4回以内 (但し定植後 は3回以内)
モスピラン粒剤	レタス	0.5g/株		定植前日 ～定植当日	1回	株元散布	4回以内 (但し定植後 は3回以内)
モスピラン粒剤	非結球 レタス	0.5g/株		定植前日 ～定植当日	1回	株元散布	1回
オンコルマイクロカプセル	レタス 非結球 レタス	100倍	セル成型育苗トレイ (30×59×4.4cm使用土 壌約3リットル) 1箱当たり0.5リットル	定植時	1回	灌注	1回
アクタラ粒剤5	レタス	0.5g/株		育苗期後半	1回	株元散布	1回
	レタス	15g/ 培土1 $\frac{1}{2}$ 畝		は種前	1回	床土混和	
バダンSG水溶剤	レタス	1500倍		収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内
アフファーム乳剤	レタス 非結球 レタス	1000～ 2000倍	100～300リットル	収穫3日前 まで	3回以内	散布	3回以内